

# ながおから版 防災かわら版

第5回  
新潟県中越地震

令和4年11月21日発行  
一般社団法人  
長岡青年会議所  
未来へ繋ぐ灯り委員会  
後援 長岡市教育委員会

ぼうさい  
せいしんせい  
防災×長岡の精神性

わたし達の住む長岡で7・13水害、新潟県中越地震という2つの大きな災害(さいがい)が起こってから18年がすぎました。災害からの復興(ふっこう)には長岡人の精神性が活かされてきました。『ながおから防災かわら版』はその史実(しじつ)と共に復興にかけた想いと精神性を5回シリーズでお伝えします。

## 新潟県中越地震



地滑りにより道路が寸断された山古志地域の当時の様子

### 新潟県中越地震の様子

平成16年10月23日午後5時56分突然(とつぜん)の激震(げきしん)、最大震度は7。家が倒壊(とうかい)、野山は崩壊(ほうかい)し、道路は陥没(かんぼつ)するなど、新潟県内各地で大きな被害(ひがい)を受けました。これは後に新潟県中越地震と名づけられました。地震でなくなった方は46名、重傷者(じゅうしょうしゃ)631名、軽傷者4162名にもおよびました。

避難所に集まる人々



倒壊した家屋



崩壊した野山

家が倒壊し、住むことが出来なくなりました。住みなれた土地をはなれ、各地へ避難(ひなん)生活(せいかつ)を行いました。避難者(ひなんしゃ)は最大で10万人以上に達(いた)したと言(い)われています。

## 10.23中越地震 セレモニー



今年(ことし)10月23日で中越大震災(ちゅうえつおほいしんさい)から18年(とほひ)がすぎました。当時(たぎ)犠牲(ぎせい)に(な)られた方々(かたがた)への追悼(ついでん)と、いただいた支援(しえん)への感謝(かんしゃ)をみんなで共有(きょうゆう)し、全国(ぜんこく)へ発信(せつしん)するため、復興(ふっこう)記念(きねん)行事(ぎぎ)が行(こ)われました。

アオーレ長岡(アオーレながおか)ナカドマでは献花台(けんかた)「けんかだい」と復興(ふっこう)の灯(あかり)り点灯(てんてい)が行(こ)われ、地震(じしん)の時(とき)に親(おや)子(こ)が乗(の)った車(くるま)が崖崩(がけくずれ)れ(が)けくずれに飲(の)みこまれ、奇跡(きせき)的(てき)に2才(ふたさい)の男(おとこ)の子(こ)が助(たす)けられ、た妙見(たみょうけん)みょうけん(みょうけん)が用意(ようい)されました。わたし達(わたしたち)長岡(ながおか)青年(せいねん)会議(ぎぎ)所(じょ)でも、これらの会(かい)場(じょう)に行(い)き、市内(しやうちん)小(せう)中(ちゅう)学(がく)生(せい)と共(とも)に作成(さくせい)したメッセ(メッセージ)折り鶴(おりづる)の奉納(ほうな)「ほうな)うのう)と、献花(けんか)を行(こ)いました。犠牲者(ぎせい)者(しゃ)への追悼(ついでん)と、あの地震(じしん)を忘(わす)れま(いと)する記憶(きおく)きおくの継承(けいしょう)けいしょうのため、多く(おほく)の方(かた)が会(かい)場(じょう)で当(た)時(とき)をふり返(かへ)り、祈(いの)り(の)り)を捧(たも)たせていました。



妙見堰(たみょうけん)での献花(けんか)の様子(ようす)・折り鶴(おりづる)奉納(ほうな)の様子(ようす)



アオーレ長岡(アオーレながおか)での献花(けんか)の様子(ようす)・折り鶴(おりづる)奉納(ほうな)の様子(ようす)

# 災害地域での取り組み

川口地域

10・23 追悼式典 私たちの灯り

川口地域でもすばやく川口を会場に、追悼式典が行われました。多くの方が参列した会場にわたし達長岡青年会議所も参加しました。川口地域の方々で作成したキャンドルに火を灯して、午後5時56分にあわせて黙祷(もくと)を行いました。

地元の川口中学校の生徒が「地域の方たちがたくさんの方々の努力をしたこと、多くの人が助けに来てくれたことをわすれない」とちかひの言葉を語りました。



式典会場全体の様子

午後5時56分を示す時計とキャンドル

## 復興に至った

## 想いと長岡の精神性

未来を考えた人・地域づくりはとても大切です。わたし達の住む長岡で7・13水害、新潟県中越地震という2つの大きな災害が起きていますが、いずれの災害においても、これまでのかわら版でお伝えしてきたように長岡の人々は**米百俵(こめひゃっぴょう)の精神**や**共助(きょうじょ)の精神**、**常在戦場(じょうざいせんじょう)の精神**を活かして災害から復興してきました。



# 長岡の精神性

# 防災

**米百俵の精神の活用法**  
第1回かわら版でお伝えしましたように、災害時や避難所では日ごろからの地域づくり・人づくりが大切になります。

わたし達長岡青年会議所メンバーも今回各地域の追悼式典に参加したことで、特にその部分を強く感じました。

この防災かわら版を見たみんなも、今回は地震の災害がメインでしたが、水害やそれ以外の災害が起きたときでも、それぞれどうしたら良いのか家庭や学校などで考え、その対策(た いさく)を共有することが未来を見すえた地域づくり・人づくりにつながるのではないのでしょうか。

## これまでの振り返り

今年、長岡青年会議所は5回にわたって『ながおか防災かわら版』を発行し、長岡で起きた災害とそこからの復興、そして復興に大きな影響(えい きょう)をあたえた長岡に活きる精神性についてお伝えしてきました。

中之島、川口、山古志地域の体験者の方々、長岡震災アーカイブセンター(たーきおくみらいのスタッフ)のみな様など多くの方のご協力に感謝いたします。

また、防災かわら版を掲示(けいじ)したり、授業で取り上げてくれた小学校様、メッセージ折り鶴作成にご協力してくれた生徒のみな様大変ありがとうございました。



写真・参考文献の提供元はこちらから



バックナンバー



ご意見・ご感想お聞かせください。

